

策定年月	令和5年1月
見直し年月	令和〇年〇月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：雨竜町

（作成主体：雨竜町地域農業再生協議会）

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## (1) 需要に応じた生産の現状と課題

・小麦については、本地域で生産している小麦「きたほなみ」は(R4年製品466.0t)は全量がパン・中華麺用以外(うどん、そうめん等の麺類)として、「ゆめちから」(令和4年産製品35.0t)は全量がパン・中華麺用として、ホクレン農業協同組合連合会を中心とし、XXXXXXXXXX加工業者等へ販売している一方、国際情勢の変化を踏まえ国内における麦の安定供給体制として現状面積を維持・増加する必要がある。

・大豆については、本地域で生産している「白大豆」(R3製品54.6t)は食用(煮豆、納豆、豆腐、味噌など)としてホクレン農業協同組合連合会を中心とし、XXXXXXXXXX加工業者等へ販売しているが、実需からの高い評価のもと安定供給が求められており現状面積を維持する必要がある。白大豆について、気象条件による生産量の年次変動がある為、安定供給を行えるよう、排水対策や農地集約による効率化による適期作業を推進する。

## (2) 生産における現状と課題

### 小麦・大豆の課題

- ・作付面積は増加傾向で推移しているが、小麦・大豆の単収は長期的に低下傾向となっている。
- ・単収低下の原因として、極端な気象条件(多雨や大雪による融雪遅れ)による作業の遅れ等が考えられ、収量を向上・安定化させるためには、排水対策の実施が課題となっている。
- ・更に、近年は農地集約が進み作業面積が拡大したことによる適期作業の逸失等も単収低下の要因と考えられる。このため、スマート農業の導入等による作業の効率化が必要と考える。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## (3)実績

### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		R2年産		R3年産		R4年産(現状)		R2年産	R3年産	R4年産(現状)	R2年産	R3年産	R4年産(現状)
小麦	きたほなみ	(112.7)	126.5	(108.7)	125.6	(134.6)	151.4	378.0	340.0	331.0	481.5	421.8	501.2
作物計		(112.7)	126.5	(108.7)	125.6	(134.6)	151.4	378.0	340.0	331.0	481.5	421.8	501.2

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		R2年産		R3年産		R4年産(現状)		R2年産	R3年産	R4年産(現状)	R2年産	R3年産	R4年産(現状)
大豆	白大豆	(36.7)	46.8	(34.8)	43.3	(53.1)	71.2	177.0	137.0	189.0	83.0	54.6	134.8
作物計		(36.7)	46.8	(34.8)	43.3	53.1	71.2	177.0	137.0	189.0	83.0	54.6	134.8

### (1)取組方針

#### ①需要に応じた生産と販売の実現

実需者ニーズが生産者の営農計画に着実に反映されていくよう、地域JA等と一体となって、JA営農懇談会や技術講習会等を通じた、品種別・用途別の需給動向の情報提供に取り組んでいく。また安定した供給が図られるよう、基本技術の徹底や新技術の導入、病害虫への抵抗性や加工適正が優れた品種への転換など、安定生産と品質の確保に取り組んでいく。大豆については、実需からの一定の評価のもと作付面積拡大及び、生産量の安定化を図る取組を推進する。

#### ②排水改良

ほ場の排水の改善に向けては、簡易暗渠の設置やサブソイラー等による心土破碎など基本技術の徹底のほか、計画的な暗渠排水の設置・更新を進める。

#### ③適期作業

小麦・大豆の適正な輪作による安定生産と品質の確保に向けて、輪作を構成する作物の適期作業を図る為、スマート農業技術を活用した高性能機械による省力化を図る。

#### ④土作り

土壌診断の実施を推進し、診断結果を基にした施肥を行うことで生産性の向上及び生産コストの削減を図る。秋まき小麦播種前講習会を開催し、圃場の準備・管理について話し合うことで、土づくりや収量に期待を図る。

#### ⑤各種講習会

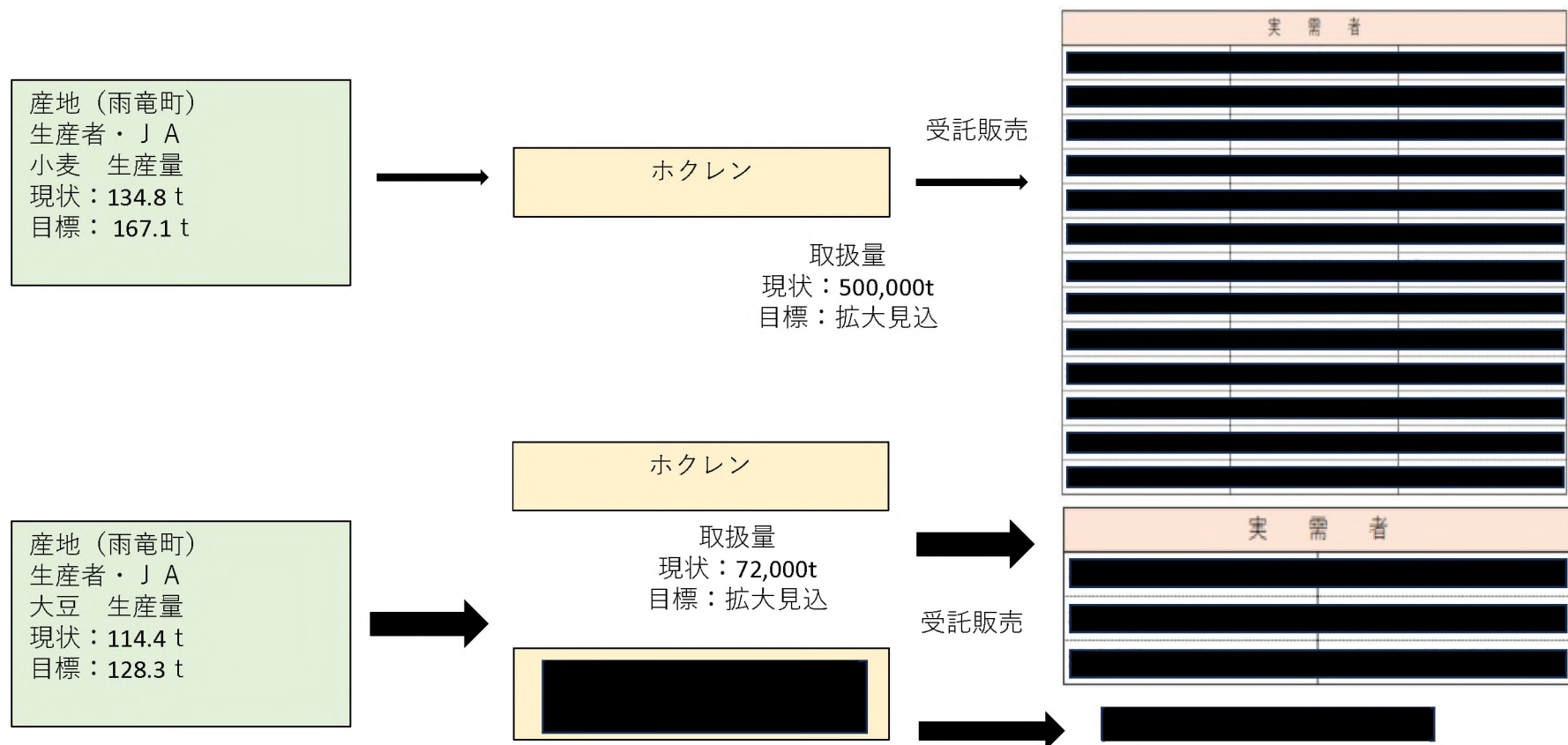
大豆講習会を開催し、基本的栽培技術から圃場準備等、講習や話し合うことで新規作付けによる面積の増加や栽培の収量と品質を図る。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②以降は産地の実態に即して記載する。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針



実需者からのニーズを着実に反映されていくよう産地として、安定生産と品質の確保に向け、基本技術の徹底や新技術の導入に取り組み、作付面積の維持拡大及び、生産量の安定供給を推進していく。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

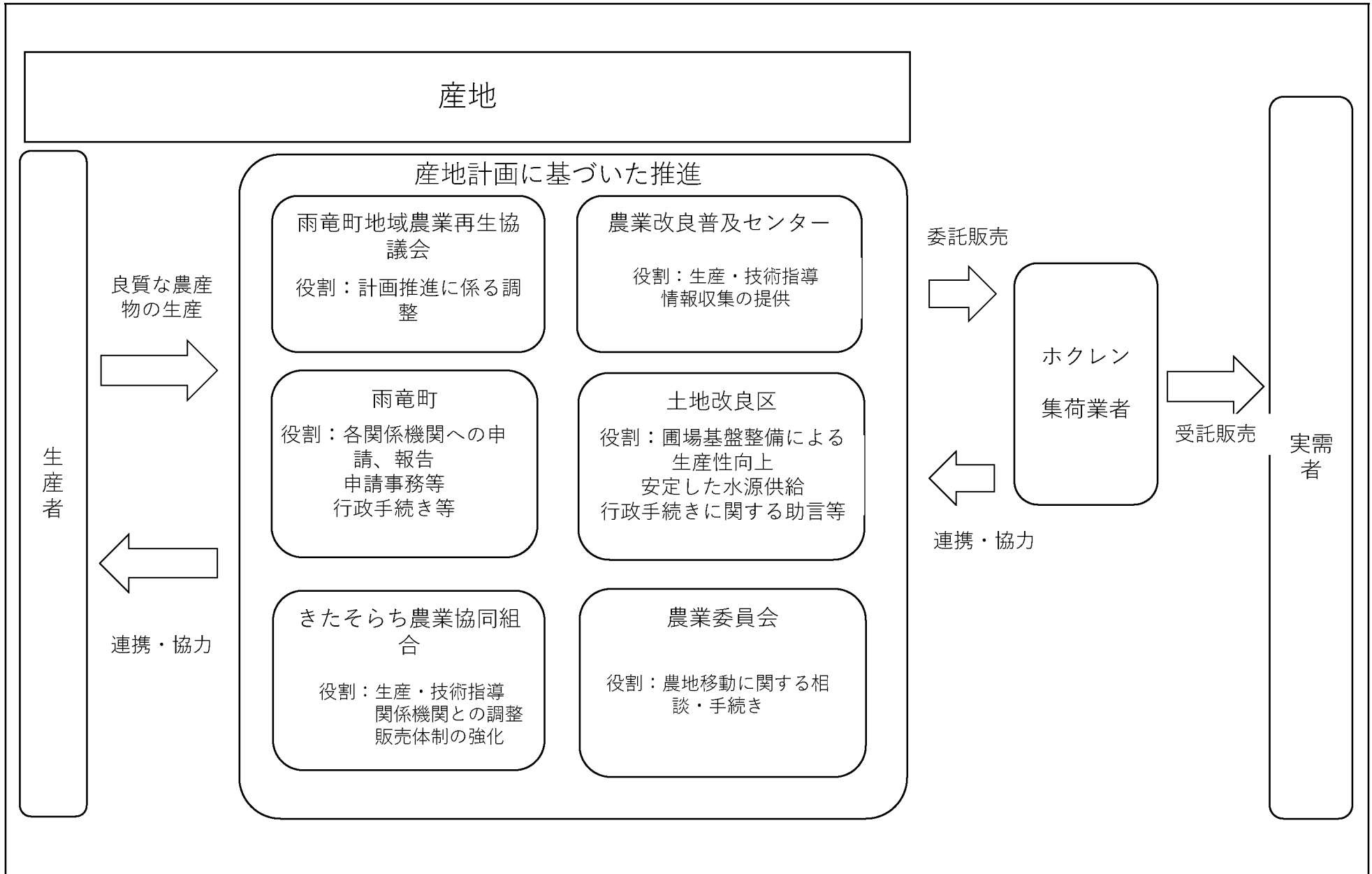
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。